

狭山の歴史をたずねて

今回私たちは、これらの文化財を皆さんに紹介し、私たちがもっと狭山のことを知らために、そして、狭山の歴史をこれからの時代に受け継いでいくために文化財を巡ってみました。

小中学生はもうすぐ夏休みを迎えます。皆さんも家族や友だちと狭山の文化財巡りをしてみてはいかがでしょうか。

神像



いりそ ししまい
▲入曽の獅子舞③（入間地区・南入曽）

入曾の獅子舞は、毎年10月の第3土・日曜日に金剛院と人間野神社に奉納されます。江戸中期にはすでに行われていたこの獅子舞は、県西部地方を代表する郷土芸能で、かつては悪疫退散や雨乞いを祈願して舞ったこともあります。

※1ねずみの図¹⁴は、博物館で管理しています
※2生越道道標⁴⁴は、国道16号拡幅工事のため、
一時保管しています

狭山の文化財

県指定文化財

番号	種別	名称	所在地・伝承地
①	工芸品	さはりの壺	入間川
②	古文書	篠井家文書	笹井
③	無形民俗文化財	入曾の獅子舞	南入曾
④	無形民俗文化財	梅宮神社の甘酒祭り	上奥富
⑤	史跡	七曲井	北入曾
⑥	旧跡	堀兼之井	堀兼
⑦	天然記念物	広瀬神社の大ケヤキ	上広瀬

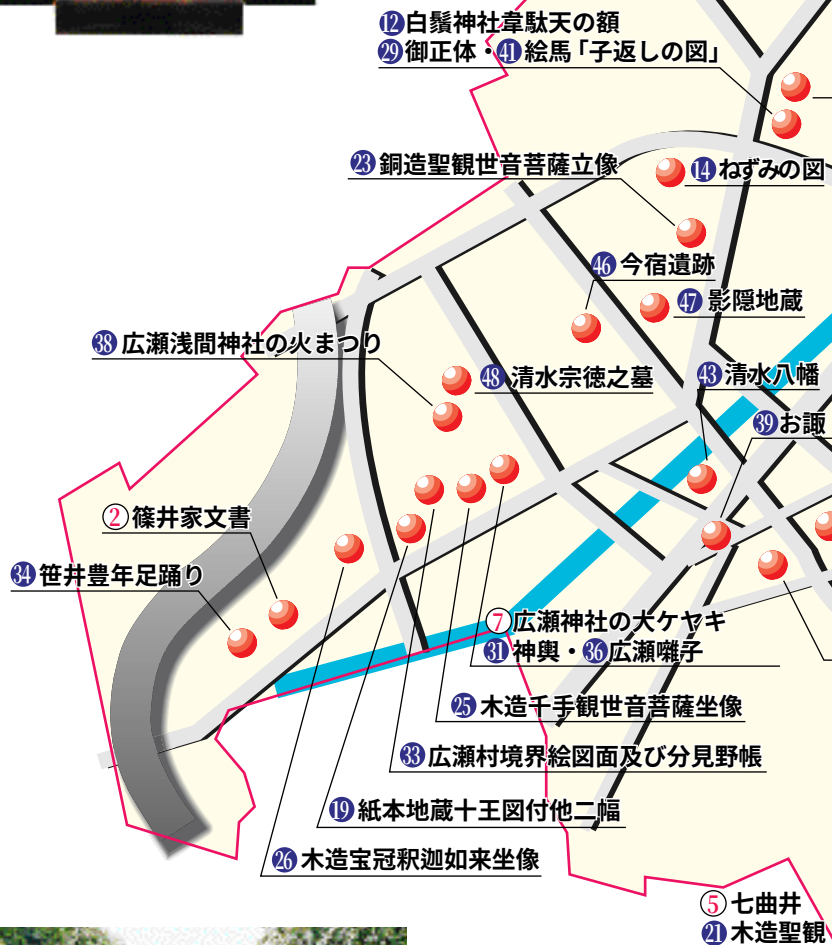
市指定文化財

番号	種別	名称	所在地・伝承地
⑧	建造物	天岑寺惣門	沢
⑨	建造物	広福寺山門	下奥富
⑩	建造物	八幡神社本殿	入間川
⑪	建造物	隨身門及び二神像	堀兼
⑫	絵画	白鬚神社韋駄天の額	柏原
⑬	絵画	仙人の図	柏原
⑭	絵画	ねずみの図	柏原
⑮	絵画	桃園三傑図	上奥富
⑯	絵画	絹本着色釈迦涅槃図	入間川
⑰	絵画	絹本着色釈迦八相図	入間川
⑱	絵画	紙本着色両界曼荼羅	上奥富
⑲	絵画	紙本地蔵十王図付他二幅	根岸
⑳	彫刻	慈眼寺阿弥陀如来像	入間川
㉑	彫刻	木造聖観世音菩薩坐像	北入曾
㉒	彫刻	木造地藏菩薩立像	南入曾
㉓	彫刻	銅造聖観世音菩薩立像	柏原
㉔	彫刻	木造不動明王及び二童子立像	柏原
㉕	彫刻	木造千手観世音菩薩坐像	上広瀬
㉖	彫刻	木造宝冠釈迦如来坐像	笹井
㉗	工芸品	梅宮神社鰐口	上奥富
㉘	工芸品	野々宮神社古代甕	北入曾
㉙	工芸品	御正体	柏原
㉚	工芸品	大水作鎗	柏原
㉛	工芸品	神輿	上広瀬
㉜	書跡	梅宮神社神号	上奥富
㉝	古文書	広瀬村境界絵図面及び分見野帳	上広瀬
㉞	無形文化財	笹井豊年足踊り	笹井
㉟	無形民俗文化財	八幡神社鹿子舞	入間川
㊱	無形民俗文化財	広瀬囃子	上広瀬
㊲	無形民俗文化財	入曾囃子	北入曾
㊳	無形民俗文化財	広瀬浅間神社の火まつり	上広瀬
㊴	無形民俗文化財	お諏訪さまのなすとっかえ	入間川
㊵	有形民俗文化財	天岑寺月待供養の碑	沢
㊶	有形民俗文化財	絵馬「子返しの図」	柏原
㊷	史跡	清水濱臣の墓	狭山
㊸	史跡	清水八幡	入間川
㊹	史跡	生越道標	下奥富
㊺	史跡	城山砦跡	柏原
㊻	史跡	今宿遺跡	上広瀬
㊼	史跡	影隠地蔵	柏原
㊽	史跡	清水宗徳之墓	上広瀬
㊾	天然記念物	羽黒神社菩提樹	加佐志



もくぞうふどうみょうおう にどうじりつぞう
 ◀ 木造不動明王 及び二童子立像^㉔ (柏原地)

永代寺にある木造不動明王と二童子立像は同寺のかつての本尊といわれ、江戸初期に造られたと推察されています。像高は、中央の不動明王が72.2cm、両脇の二童子がいずれも41.7cmで、躍動感あふれるその姿は美術的に見ても大変優れた作品で、市内にある不動明王の中では最高傑作といわれています。



てんしんじそうもん
 ◀ 天岑寺惣門^⑧ (入間川地区・沢)

沢にある天岑寺惣門は、沖繩風の様式が漂った総ケヤキ造りの門で、表間口3.64m、奥行3mの四脚門で、屋根は瓦葺き切妻、中央は一段高く、天に通じる門の意味を表す「通霄関」の扁額が掲げられています。

狭山の文化財



広福寺山門(下奥宮)

入間川の文化財

天寧寺(沢)の境内にある月待供養の碑④は文明14年(1482)8月23日に建てられ、阿弥陀三尊の来迎図が刻まれています。月待とは特定の月齢の夜に信者が集まり、月の出を待ってこれを拝む行事で、この碑には11人の有力農民と、僧侶と思われる2人の名前が刻まれています。

八幡神社(入間川3丁目)にある

さはりの壺①は、高さ18・7cm、最大直径10cm、口径7cm、大正12年(1923)に本殿を移転した際に神門の下から発見されたもので、地鎮の祭具と考えられています。さはり(砂波利)とは銅に錫と鉛を加えた合金で、たたくとよい音がするので「響銅」



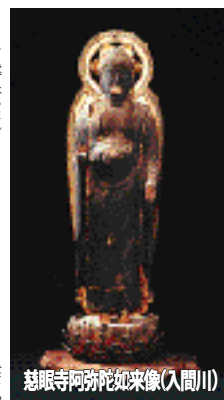
八幡神社鹿子舞(入間川)

の字をあてることがあります。

また、八幡神社で毎年9月14・15日に行われる獅子舞は、八幡神社の鹿子舞③と呼ばれ、18世紀前半にはすでに行われていたといわれています。明治維新のとき、獅子は仏教に属すとしてとがめを受けましたが、土地の機転者が「自分のところは獅子でなく鹿である。鹿は神の使いである。」と言って禁を免れて以来、鹿子舞と書くようになったとのことです。

徳林寺(入間川2丁目)が所蔵する絹本着色釈迦涅槃図⑤(縦177・5cm、横104cm)は、幕府旗本の小笠原家が元禄元年(1688)に奉納したものです。釈迦八相図⑦(縦188・5cm、横104cm)は、当地の豪商・綿貫家が延享2年(1745)に奉納したものです。涅槃図とは、釈迦が亡くなったときの様子を絵にしたもので、弟子や諸王らが嘆き悲しんでいる姿が描かれています。八相図とは、釈迦の生涯の主要な出来事8つを絵にしたもので、いずれも絹地に極彩色で描かれています。

慈眼寺(入間川1丁目)の阿弥陀如来像②は、高さ73cmの一木造りの立像です。この仏像は素地に漆で麻布を張り、さらにその上に漆を塗って仕上げるという平安時代の技法で造られた市内最古の仏像とされています。



慈眼寺阿弥陀如来像(入間川)

清水八幡④(入間川3丁目)は、源義仲の嫡男の清水冠者義高を祭神とする神社です。義高は源頼朝の娘の婿となりましたが、義仲が後白河法皇に背いて殺されたため、義高も鎌倉から信濃(長野県)に逃げる途中の元暦元年(1184)4月、入間川で殺害されてしまいました。ここに同社があるのは、義高の死を哀れんだ北条政子が手厚く保護したためといわれています。

清水濱臣の墓⑥は市内狭山にあります。濱臣は江戸後期に活躍した国学者で、古典の校合に励み、著書は『万葉集考証』をはじめ130冊にのぼります。濱臣の墓がここにあるのは、同人の父道門が当地で医師をしていたため、墓石には文政7年(1824)閏8月17日と没年が刻まれています。

※天寧寺惣門⑧は3ページに、八幡神社本殿⑩は9ページにあります

入間の文化財

七曲井⑤(北入曽)はすり鉢形をした古代の井戸で、最大直径26m、深さは11・5mあり、武蔵野の歌枕として名高い「ほりかねの井」の一つといわれています。井戸の脇を通る道



お諏訪さまのなすつかえ③
入間川4丁目の諏訪神社で毎年8月26日前後の土・日曜日「お諏訪さまのなすつかえ」という珍しい祭礼が行われます。この祭は、自分の畑で採れたナスを神社に納める代わりに、神前に供えてある別のナスを戴いて帰るというもので、ナスは夏ので、ナスは夏の毒消しといわれたところから始まったと伝えられています。

は古代の入間道ですが、延長5年(927)に完成した「延喜式」を見ると、諸国の駅路で飲み水のないところには井戸を掘りなさいとあるので、この井戸は遅くとも9世紀後半には掘られていたと考えられています。



七曲井(北入曽)

北入曽の観音堂本尊である木造聖観世音菩薩坐像②は、18世紀後半から19世紀前半にかけて造られたものです。像高54cmのこの仏像は、川越の仏師・大覚の作で、端正な顔立ちで全体的に均整のとれた姿は、技術的

狭山の歴史をたずねて

に優れた作品といわれています。

金剛院(南入曽)にある木造地藏菩薩立像②(像高79cm)はかつて同地にあった地藏堂の本尊です。慈悲深い穏やかな顔をしたこの仏像は金剛院所蔵の古文書によると元龜4年(1573)に修理したとあり、室町時代の作であることが分かります。

入曽離子③は地元(北入曽)に古くからあった里神楽を土台に、文政年間(1818~1830)に豊島郡徳丸(板橋区)から芸人を招き、地元有志に伝授されて始まったといわれています。里神楽の流れをくむ三番舞を舞うのが特徴で、野々宮神社の祭礼などに奉納されます。



入曽離子(北入曽)

※入曽の獅子舞③は2ページにあります

野々宮神社古代遺

北入曽の野々宮神社が所蔵する古代遺(上部口径13cm、底部口径12cm、高さ16cm)は粘土紐を積み上げて作ったものです。奈良時代末期から平安時代初期の作と推察されるこの甕は、酒を入れて神前に供える祭具に使われたといわれています。



堀兼の文化財

堀兼神社境内にある堀兼之井⑥は直径7・2m、深さ1・9mですが、大部分が埋まっているため、かつての姿がどのようなものであったかは不明です。七曲井と同様に「ほりかねの井」の一つと考えられており、これを事実とする、堀られた年代は平安時代までさかのぼります。

加佐志の羽黒神社菩提樹④は幹回り約2m、高さ約10mで、樹齢は550年と推定されています。毎年6月から7月にかけて香りのよい淡黄色の花が咲き、葉の裏に実を結ぶのが特徴です。実の大きさは直径8mmほどの球形で、灰褐色の毛が密生しています。



羽黒神社菩提樹(加佐志)

※堀兼神社の隨身門及び二神像①は8ページにあります

奥富の文化財

梅宮神社(上奥富)で毎年2月10・11日に行われる甘酒祭り④は、盃を勧めては謡いをあげさらに盃を重ねるという饗宴型の酒盛り祭りです。特徴は氏子を数組に分け、その中の1組が1年を単位とする輪番制で祭礼

に奉仕する「頭屋制」により運営されることで、10日の夜には厳肅な「座揃式」が、11日の午後には頭屋を引き継ぐ「頭渡し」の神事が行われます。

梅宮神社の鰐口⑦は応永33年(1426)5月3日の銘を持つもので、直径は14cmです。鰐口とは偏平な形をした銅製品で、下部に横長の口があり、社殿や仏堂の軒下につるされる仏具の一つです。この鰐口には「武州人東郡奥留郷西方滝梅宮鰐口」と刻まれているので、当時は人間郡の一部を東郡と呼び、奥富も奥留と称していたことが分かります。

同社にある桃園三傑図⑧は、蜀(中国)の皇帝劉備玄德が関羽・張飛の兩名と桃の木の下で兄弟の盟約を結ぶところを描いたもので、縦125cm、横180cmの大きさです。作者は雪舟の流れをくむ雲谷派の雪山堤等琳で、文政3年(1820)に奉納されたものです。

梅宮神社神号⑨は縦43・7cm、横115・6cmの大きさで、筆者は江戸時代を代表する書の名手として知られた亀田鵬斎です。鵬斎は江戸出身の儒者ですが、寛政異学の禁では異端者の筆頭と目された人物です。同人の書が評判となるのは弾圧を受けてから以後であるため、この額は晩年



梅宮神社甘酒祭り(上奥富)

の作と考えられています。

瑞光寺(上奥富)にある紙本着色(両界曼荼羅)⑩は、金剛界と胎藏界の曼荼羅を極彩色で描いたもので、大きさはいずれも縦90・5cm、横81cmです。曼荼羅とは多くの仏を一定の方式により整然と描いた図像

画で、室町時代の作と考えられています。

下奥富の広福寺山門⑪は竜宮造りの建物で、入母屋造りの瓦葺き屋根の下は鐘楼になっています。この寺が所蔵する古文書によると、この門は文化元年(1804)10月に棟上祝儀を行ったとあるので、翌年には完成したと考えられています。

下奥富にある生越道道標⑫は寛政2年(1790)に建てられたもので、国道16号に面して立っています。この道標を生越道道標と呼ぶのは「北下奥富入口 井柏原生越道」とあるためです。生越は人間川の流れを越す「瀬越し」との説がありますが、正確には「おこせ(越生)」と読むのが正しいと思われます。



▲生越道道標(下奥富)

狭山の文化財



広瀬神社神輿(上広瀬)

柏原の文化財

柏原にある城山砦跡④は市内唯一の中世城郭で、面積は約7千㎡です。この砦は上杉砦ともいいますが、それは天文14年(1545)9月から半年近くにわたり関東管領の上杉憲政が陣を敷いたためです。憲政がここに着陣したのは、小田原を本拠とする北条氏の手に落ちた河越城を奪い



城山砦跡(柏原)

返すためでした。現存する砦跡は台地端部にあり、高さ10mほどの河岸段丘上に、東から本郭・二の郭・三の郭の順に並んでいます。

白鬚神社の御正体②は銅製で、これも円い鏡のような形をしており、直径30cm前後が3面20cm前後が2面あります。これらは地元の鑄物師神田氏によって作られたもので、中央に十一面観世音菩薩が鑄出されています。

同社にある韋駄天の額③は中央の高さ131cm、左右の高さ111cm、幅179cmの大きさで、韋駄天が仏舎利を奪って逃げた魔王を捕まえた瞬間が描かれています。作者は江戸幕府の御絵所絵師であった勝田竹翁で、江戸前期の作と考えられています。

絵馬「子返し」の図④は、白鬚神社の境内社である浅間神社に奉納されたもので、縦36cm、横74cmの大きさです。子返しとは口減らしのために子どもを殺すことで、「間引き」ともいいます。この絵馬は子返しを戒める目的で奉納され、2人の女性が描かれています。一方は鬼の姿をしています。

西浄寺のねずみの図⑤(縦60cm、横210cm)は、同寺が甲子寺

といわれたところから奉納されたもので、たぐさんのネズミが張り子



▲絵馬「子返し」の図(柏原)

した画家ですが、同人は幕末の一時期入間川の豪商・綿貫家に滞在し



ねずみの図(柏原)

木槌を作っている姿が描かれています。作者は幕末から明治初期にかけて活躍した河鍋晩斎です。晩斎の作品は市内に多数残っていますが、それは同人が一時期柏原に滞在していたためです。

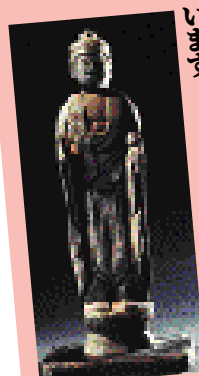
大水作鎧⑥は、応永32年(1425)に没した当地の鎧鍛冶師・増田大水正金が作ったもので、全長67.8cm、穂先の長さは23.5cmです。大水は和郡山(奈良県)の出身で、その子孫は4代にわたって鎧を作ったという記録が残っています。



影隠地蔵(柏原)

※木造不動明王及び二童子立像⑦は3ページにあります

ていました。影隠地蔵⑦は、狭山中央通りの奥州道交差点に面して立っています。この地蔵を「影隠」というのは、清水冠者義高が源頼朝の放った追手から身を守るため、その背後に姿を隠したためといわれています。かつては上広瀬側に地蔵堂があり、その中に安置されていましたが、道路拡幅のため現在地に移転しました。



●銅造聖観世音菩薩立像⑧
円光寺にある銅造聖観世音菩薩立像は、地元の鑄物師・神田氏の手により元龜3年(1572)に造られたもので、像高は41.5cmです。その姿は左手でつぼみの蓮華を持ち、右手は指を伸ばしてすべての恐れを取り除く施無畏印を結んでいます。

狭山の歴史をたずねて

水富の文化財

篠井家文書②とは、戦国時代から江戸初期にかけての修験や小田原北条氏関係の文書を指します。同家は代々の当主が笹井親良を主を勤め、戦国時代には当地方にあつて多数の山伏を配下に治め、絶大な権力を持っていました。この中には、北条氏が豊臣秀吉や徳川家康との対決を前に小田原への参陣を命じた天正16年(1588)正月の文書もあります。



▲篠井家文書(笹井)

広瀬神社の神輿③は、下框の長さが縦横いずれも122cm、鳳凰までの高さが228cmという大きさで、上広瀬村名主の清水寛右衛門によって元治元年(1864)に奉納されたものです。豪華絢爛な中にも格調のあるこの神輿は、当地の木工・横田長太夫が作ったものです。

上広瀬にある今宿遺跡④は奈良・平安時代の集落跡です。ここからは48軒の竪穴住居が発掘されましたが、このうち25軒は8世紀台に築か



▲今宿遺跡(上広瀬)

れたものです。出土品は土師器や須恵器といった土器がもつとも多く、このほかに炭化したコメやヒエ、鎌などの鉄製品も見つかっています。

清水宗徳の墓④は上広瀬の浅間神社近くにあり、宗徳は明治時代に地域の殖産興業に尽力した人で、県内最初の機械製糸工場の設立や鉄道の敷設、斜子織と呼ばれる絹織物の改良、北海道の開拓などに従事しました。また、明治23年(1890)から衆議院議員を2期務めています。

広瀬村境界絵図面及び分見野帳⑤は、入間川の氾濫によつて村境が不明になったとき、これを復元する際の参考として作られたもので、元禄3年(1690)と弘化4年(1847)の2枚の絵図面があります。前者は



笹井豊年足踊り(笹井)

笹井豊年足踊り④は、笹井囃子の演目の一つで、毎年4月と10月の中旬に行われ

縦395cm、横31cm、後者は縦108cm、横23cmの大きさです。分見野帳とは、絵図面を作る際の測量結果などを記入した帳面のことで、



木造千手観世音菩薩坐像(上広瀬)

禅龍寺(上広瀬)にある木造千手観世音菩薩坐像⑤は、同寺境内にある観音堂の本尊です。像高は64.4cmで44本の手があり、尊顔はインド人のような顔立ちで、細かな部分まで極めて精巧に造られています。

明光寺(根岸)にある紙本地蔵十王図⑥は、いずれも縦93cm、横39cmの大きさで、脱衣婆と修羅を加えた13幅からなっています。十王とは冥途で死者を裁く閻魔王などのことで、作者は不明ですが、人物の描き方や構図は大変しっかりしています。

宗源寺(笹井)にある木造宝冠釈迦如来坐像⑦は宝暦12年(1762)に作られたもので、像高は38cmです。釈迦の頭はふつう、イボイボの螺髪で中央に盛り上がった肉髻があり、衲衣をまとう姿をしています。いますが、この釈迦は宝冠をかぶり、胸飾りをつけた菩薩形に造られています。

笹井豊年足踊り④は、笹井囃子の演目の一つで、毎年4月と10月の中旬に行われ

草を演じて見せる様子は見事なものです。

広瀬神社⑧は江戸末期の万延から文久年間(1860-1864)に誕生したもので、上広瀬神社の祭礼などに奉納されます。神田古囃子を受け継ぐ囃子は県内では珍しく、川越藩主のもとで催された上寛囃子の際、山車に乗っての神業にお褒めの言葉をお願いしたことは、上広瀬の人々の語り草として伝えられています。

※上広瀬神社大ケヤキ⑦は9ページにあります

上広瀬の浅間神社の火まつり⑧

上広瀬の浅間神社で毎年8月21日に行われる火まつりは、山梨県の富士吉田にある富士浅間神社の鎮火祭を模倣して始まったものです。この祭は、桑の枝で作った高さ3mと2.5mほどの2本の護摩木に火を放つというもので、午後8時ごろに最高潮に達します。燃えたあとの灰は火難除けや、蘭の豊作に御利益があるといわれています。



歴史散策・レポート

遠い昔より守られ、受け継がれてきた文化財
皆さんも巡ってみてはいかがですか



「小学校の社会科見学で行ったよ
うな気がする」とか「看板は見たこ
とがあるけど行ったことはない」と
いうかたが多いのではないでしょ
うか。そこで今回は市民のかたお二
人にリポーターとして文化財を巡っ
ていただき、感想を伺いました。



▲水野新田開発地

水野は川越藩により、江戸時
代の寛文6年(1666)に開発され
た新田で、北側に屋敷を構え、そ
の南に広大な畑と雑木林のある
風景は新田独特のものです。村
名を「水野」としたのは、平安
末期の歌人・藤原俊成が詠んだ
「武蔵野に堀金の井もあるもの
を嬉しくも水の近付きにけり」
の「水の」からとったものです。

七曲井

水野新田開発地

堀兼神社

羽黒神社

おおよまどうとうひょう
大山道道標

広福寺

天岑寺

じょうらくじ しちかんのん
常楽寺七観音

城山砦跡

今宿遺跡

広瀬神社

八幡神社



◀大山道道標

大山は神奈川県
のほぼ中央にあ
る山で、別名を
雨降山(あふり
さん)といい、
農業の神様とし

て信仰されていました。道標は、
旅人が迷うことなく目的地へ到
着できるようにとの配慮から建
てられたものですが、自分たち
の利益に無関係な道標を村人が
建てたのは、それが「人の道に
適う」と考えていたためです。



▲常楽寺七観音

七観音は天保15年(1844)に建
てられた石仏で、聖観音、千手
観音、馬頭観音、十一面観音、如
意輪観音、准提観音、楊柳観音
が刻まれています。

▶隨身門及び二神像①(堀兼地区・堀兼)

堀兼神社の隨身門は単層入母屋
造りの八脚門で、桁行は6.85m、梁
間は4.12mです。隨身門とは神社の
外側の門のことで、寺院でいう仁
王門に該当します。朱塗りの門の
両側には彩色が施された二神像が
ありますが、向かって右が豊磐間
戸命、左が奇磐間戸命で、俗に矢大
神、左大神といわれています。こ
の神像は万延元年(1860)に塗り替
えたとの記録があるので、隨身門
も江戸後期には創建されていたと
考えられています。



※緑色枠の文化財は指定文化財ではありません

狭山の歴史をたずねて



笹原弘子さん(上奥)

狭山に移り住んで4年になりますが、文化財など見る機会もなく過ごしてきた私にとって今回のリポートはとても楽しいものでした。ふだん広報紙や道端の案内板などで目にしていた遺跡や寺社の名前でしたが、実際にその場を訪れて広報課民俗文化広報担当の高橋副参事から説明していただいたので、文化財の成り立ちや名前のいわれ、そのころの時代背景などが分かり狭山市の歴史の古さを知るいい機会になりました。北入曾にある『七曲井』などは平安時代の前期に、都で和歌に詠まれていたというのですから、現代のような情報網のない時代にあって、その知名度は素晴らしいものだと思います。さらに井戸の脇を通る道(入間道、現在の鎌倉街道)は、古代からずっと使われていた道をそのまま現在も使っているのですから、歴史的ロマンを感じます。また、同じ文化財でも建造物のように次世代に残すことが困難なものも、今宿遺跡のような『復元』という形でみることが出来るのは、歴史をより身近に感じられうれしく思いました。今度は子どもたちが夏休みに入ってから、もう一度訪れてみたいと思います。

入間道は古代から続くロマンの道

歴史の大きな流れを感じられる城山砦跡

樹齢800年といわれる広瀬神社の大ケヤキ、人々の生活を支えた七曲井、大山道の道しるべなど、たくさんの文化財をたずねましたが、一番心ひかれた「城山砦跡」を紹介します。室町時代、ちょうど将軍が足利義晴から義輝に替わるところ、柏原ニュータウンを見下ろす高台に上杉憲政が砦を築き、半年間、この地に陣を敷いたそうです。以前は砦のすぐ下を入間川が流れていたということで、今とはずいぶん違う川の位置に自然の持つ力と長い時の流れを感じることができます。上杉憲政は北条氏との戦いを前に入間川を見てどのような戦略をたてていたのでしょうか。結局、この戦いに憲政は負けたわけですが、北条氏に追われ北へ逃げる憲政の胸中は如何ばかりだったのか…。この後、憲政が長尾景虎(後の上杉謙信)を頼っていったことは有名な話ですが、このような時代の大きな流れを狭山で感じることができるなんてうれしいことではありませんか！ただ、城山砦に関する説明の書かれた立て看板に落書きが目立ったことが残念でなりません。せっかくの市内唯一の砦跡なのでから私たちみんなの手で大切に守り続けていきたいものですよね。緑豊かで、静かなたずまいの城山砦跡、ぜひ一度訪れてみてください。



山添みわさん(柏原)



▲広瀬神社の大ケヤキ⑦(水富地区・上広瀬)

広瀬神社の大ケヤキは2本あり、1本は幹回り6.3m、高さ32m、もう1本は幹回り6.1m、高さ27mで、樹齢は約800年と推定されています。ケヤキは武蔵野に多数見られる樹木ですが、樹齢800年を超えるものは非常に珍しく、地域のシンボルとなっています。



▶八幡神社本殿⑩(入間川地区・入間川)

入間川3丁目の八幡神社本殿は享和2年(1802)に建てられたもので、唐破風向拝付き、千鳥破風入母屋造りの建物の周囲には、七福神が琴を弾いたり囲碁を指している様子が彫刻されています。透かし彫りと浮き彫りの両技法を巧みに使い分けた彫刻は、市内屈指のものです。



◀八幡神社本殿の彫刻

大胆な動きのある絵柄の彫刻は、書、音楽、娯楽のテーマに分けられ本殿の三面に彫られています。

●問い合わせ社会教育課内線
5674 か広報課民俗文化広
報担当へ内線7163

狭山市には、指定文化財のほかにもさまざまな文化財や文化遺産があります。また、狭山市が歩んできた歴史は、太古の時代から現在に至るまで、絶えることなく連続と続いてきました。そうした狭山市の歴史を、ひとりでも多くの皆さんに伝える部署として発足したのが「民俗文化広報担当」です。民俗文化広報担当では、皆さんのご要望に応じて、いつでも、どこへでも出かけて、狭山市や地域の歴史を分かりやすくお話しします。対象は、自治会、PTA、公民館で活動する各種サークルや趣味のグループなど、分野は問いません。お気軽にご連絡ください。

狭山市の歴史が知りたい
そんなときは、
民俗文化広報担当へ

市では、皆さんが文化財や狭山の歴史を見て歩く際に活用することが出来る冊子『狭山の散歩道』(一部100円・博物館と行政資料室で販売)と『狭山市の文化財めぐり』(無料・社会教育課で配布)を用意しています。

